

大久野島未来づくりシンポジウム

2020年2月11日（火・祝）13:30-16:30 サテライトキャンパスひろしま



大久野島未来づくりワークショップの成果を報告

『大久野島未来づくりシンポジウム（主催：環境省中国四国地方環境事務所 共催：竹原市）』が行われました。今回は約120名の参加者が集まりました。シンポジウム全体冒頭で、「大久野島の環境と観光の持続可能な未来について、参加者と一緒に考え、実現していく方向を見出していきましょう」との呼びかけを含んだ主催者である環境省中国四国地方環境事務所からの挨拶がありました。



124

参加者

遠くは関東や九州から参加。関心の高さがうかがえる。

6

視点

登壇者6名それぞれの視点でパネルトークがあった。

26

質問

質問への回答はホームページでも公開予定。

主旨説明



環境省中国四国地方環境事務所
山崎貴之さん

大久野島の

「ウサギ」が増え、また来島者が増えたことよって、多様なモヤモヤが起きていることから、〈開かれた意見交換〉を通して持続可能な未来に向け〈連携して取り組める雰囲気〉をつくる必要があると考え、広島県内外（関東・関西・九州）からの公募メンバー15名、行政・観光宿泊・交通関係の13団体機関メンバー20名、アドバイザー4名の約40名が参加するワークショップを計4回開いて、〈大久野島の未来づくり〉への提言をまとめた」ことについての説明がありました。

「大久野島は瀬戸内海国立公園内にあり、環境省の所轄地である島であるが、ウサギとのふれあいを目的に、国内外からたくさんの方々の来島者を迎える島となった」こと、「このウサギは、元々は捨てられたウサギが野生化した〈カイウサギ〉であり、〈外来種〉であることから本来野生下にはならない動物である一方で、地元観光資源としてなくてはならない存在となっている」こと、「来島者のエサやりによって島のウサギの数が持続可能とは言い難い頭数に増えている状況」であることについて、生物多様性の立場からの課題と、大久野島の自然と歴史の概要紹介がありました。

第一部『情報共有と事例紹介』

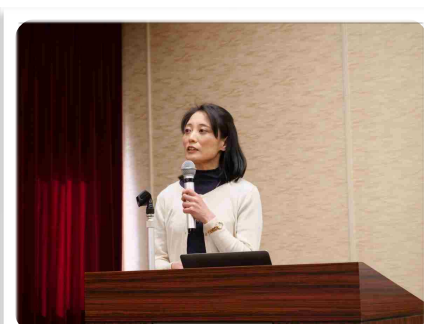
大久野島におけるウサギ個体群の現状



森林総合研究所
山田文雄さん

ウサギの研究者である山田さんより、「人為的に野生化した〈外来種〉であるウサギが引き起こした、生態系に対する被害と対策」についての諸外国や日本のいくつかの事例を元に、大久野島では「ウサギはかわいいけれど、生物多様性を頭に入れて、頭数を管理する合意形成の仕組みが必要」で、「餌を減らすことによって頭数を減らしながら生態系の回復を図り、例えば徐々にフェンスの中にウサギを囲って管理区域を設定し、健康なウサギとのふれあいができる環境をつくっていくのはどうか」と提言がありました。

大久野島のウサギに見られる病気と必要な対策



広島市安佐動物公園
野田亜矢子さん

獣医師である野田さんより、大久野島にはたくさんの方々のウサギがいることから病気がウサギ間で蔓延しやすい

い状態であることや、ウサギとふれあった人の手などからウサギへ病気がうつっている可能性があること、またウサギとのふれあいによって人にもうつる可能性のあるE型肝炎ウイルスなどの病気があることの説明があり、「人との距離が近い動物は、人による管理が必要。ウサギと訪れる人にとって何が一番良いか考えていきましょう。」と提言がありました。



広島観光コンベンションビューロー
蒲池清士さん

大久野島未来づくりワークショップ



中国新聞編集局
石丸賢さん

論説委員である石丸賢さん（中国新聞社）より、「分断の社会への問題意識を持っている。多様性を受け入れながら価値観を広げ、多様な関係者が＜我がコト＞として持続可能な方向を見出していくワークショップという手法の面白さや可能性を感じた」とこのワークショップに全回参加された感想が述べられました。

第二部『パネルトーク』

第一部の登壇者4名と、観光分野の2名が加わり環境、観光、動物、情報の専門家や行政視点を持つ方が登壇され、コーディネーターが進行しながら意見交換をするパネルトークでは次のような話題となりました。



竹原市
産業振興課
國川昭治さん

・大久野島のウサギを楽しみに来られる人が減ることなく、ウサギの課題を解決していく解決策を見いだせたら

・オーバーツーリズムの解決策のモデルケースになりうる。情報発信は、観光のマイナスにはならない。むしろ負の情報も含めた適切な情報発信によって、観光客、地域住民のストレスを減らすことができるのでは

・国立公園と地域振興がいっしょに持続可能なこれからの観光について考え、作り上げていく視点は外せないだろう

・大久野島から野生化したカイウサギによる課題解決や実践を発信し、モデルとなればよいのでは

といった意見が交わされました。

今後の大久野島の利用や管理を検討する際の骨子になりそうです。

閉会のメッセージ

環境省中国四国地方環境事務所より「大久野島の未来づくりを、環境省として力強く進めていきます」「今日シンポジウムに参加くださった方を含め、ワークショップに参加された方に感謝」「今後もみなさんの力添えが必要」とのメッセージが伝えられました。

シンポジウム参加者の感想・ご意見

参加者にアンケートを記入していただきました。その中からの声をご紹介します。

先生方の講話がびしっと的を得ていて、「うんうん」とうなづくものばかりだった

ウサギの病気に驚いた

パネルトークが短すぎ

観光の視点がもっとあってもいいと思った

注意を知らせるばかりでなく「どうすればいいか」「どうつきあえばいいか」を発信してほしい

子どもたちの意見が聞いてみたい

ウサギが多い、少ないだけではなく竹原のまちづくりも含めて話ができるこのようなことが、これからも色々な地域であるといいなと思います



どうしても観光のための取り組みに比重が大きく考えられているのではと感じる。島で生きているウサギへの配慮を欠いてはいけないと思う

非常に大勢の参加者がおられて驚きました

ウサギを始め人間のせいで悪化した環境の改善に向けて、自分にできる取り組みをしようと思います

今後の協議会などでの取り組みを期待します

PDCAでの持続可能な環境と観光の共存を期待します

カイウサギといかにつきあうかという問題がクローズアップされたのはよかったと思う

石丸氏のお話でワークショップ非参加者にも内容がよくわかったのではないかと

訪日外国人の意見もくみ取るしくみがあればいいのではないかと

(アンケートから抜粋)



大久野島未来づくりシンポジウムでの配布資料の紹介

■大久野島未来づくりノート

74ページに渡って、ワークショップの内容や大久野島の情報が記録されたもので11月26日に開催された「大久野勉強会」の要旨も掲載されています。

■大久野と私たちのこれから

ノートの内容をギュッと凝縮した冊子。イラストで分かりやすく解説しています。

※大久野島未来づくりワークショップに関するサイトでも紹介予定

http://chushikoku.env.go.jp/nature/mat/post_21.html

